

小学館 ノンフィクション大賞

最終選考結果のお知らせ

大賞

『地面師は笑う』

積水ハウス55億円詐欺事件、ある実行犯の告白』

河合桃子

小学館は本日、『週刊ポスト』『女性セブン』2誌主催による
『第32回小学館ノンフィクション大賞』の最終選考会（午後5時から）を行い、
受賞作を決定いたしました。

今回は大賞に『地面師は笑う 積水ハウス55億円詐欺事件、ある実行犯の告白』を選考しました。

大賞受賞者には賞金として300万円が贈られます。
受賞を祝う会は、単行本刊行に合わせて執り行う予定です。

PRESS RELEASE

2025年2月12日

第32回「小学館ノンフィクション大賞」最終選考結果のお知らせ

主催：株式会社小学館 週刊ポスト／女性セブン

大賞

『地面師は笑う 積水ハウス55億円詐欺事件、ある実行犯の告白』 河合桃子

【梗概】

2017年に不動産大手・積水ハウスが詐欺集団に55億円を騙し取られた事件は、その後、小説化やドラマ化などもされ、大きな注目を集めた。著者は別件の取材中に偶然、実行犯の1人と出会う。関わる人数が舞台の劇団員のように多い「地面師事件」の中で、「連絡役」と報じられたものの実際は「ただのパシリ」だった男だった。同い年である「パシリ」の実行犯に興味を抱いた筆者は、事件についての取材を始める。少しずつ主犯格とされる地面師たちへと取材対象者を広げていくが、事件の全貌に近づくのは容易ではなかった。そうしたなか、最初は事件のことを正直に話しているように思えた「パシリ」の実行犯も、偽りを重ね、責任を逃れる人生を送っていたことが次第に明らかになっていく――。

| PROFILE | 河合桃子（かわい・ももこ）

年齢： 48歳
出身： 東京都
職業： ライター

1977年3月27日生まれ。『週刊ポスト』など週刊誌を中心に執筆。幅広く取材活動を行っており、特に性風俗にまつわる事件などアングラ業界を長年取材している。

PRESS RELEASE

2025年2月12日

第32回

『小学館ノンフィクション大賞』 について

『小学館ノンフィクション大賞』とは？

「小学館ノンフィクション大賞」は、1993年、創刊25周年を迎えた『週刊ポスト』が『SAPIO』とともに、21世紀へ向け新しい感覚で時代を切り拓いていく新進気鋭のライターの登竜門となるべく、「21世紀国際ノンフィクション大賞」として新設、第7回より「小学館ノンフィクション大賞」と改称したものです。『絶対音感』（第4回）、『まぐろ土佐船』（第7回）、『ネグレクト』（第11回）、『小倉昌男 祈りと経営』（第22回）、『力道山未亡人』（第30回）、『渴愛 頂き女子りりちゃん』（第31回）を始め、大きな話題を呼ぶベストセラーとなっていることから、当賞がノンフィクションの新しい地平を拓き、新しい才能を発掘するものであることを示していると自負しております。

募集作品は未発表作品に限り、海外冒険旅行、博物誌、観察記、歴史発掘、ビジネスドキュメント、スポーツドキュメント、科学ドキュメントなど、さまざまな視点から「時代」を捉えたものを、国内外を問わず広く世界から求めます。原稿枚数は、400字詰め原稿用紙200～300枚程度で、応募資格は、プロ、アマ、性別、国籍、年齢を問いません。

PRESS RELEASE

2025年2月12日

32回を数える今回は、本年8月末日に募集を締め切り、80を超える力作が寄せられました。この中から次の4作が、本日午後5時から小学館（東京・千代田区）で開かれた最終選考にかけられ、酒井順子、森健、河合香織の各選考委員により受賞作が決定いたしました。

最終候補作

『奇蹟の蔵書 井上ひさしと私の16000日』

遠藤征広（えんどう・まさひろ）

『32人の男と1人の女が暮らす島 ―「アナタハン島事件」顛末』

フリート横田（ふりーと・よこた）

『地面師は笑う 積水ハウス55億円詐欺事件、ある実行犯の告白』

河合桃子（かわい・ももこ）

『できるならそうしてる 「内密出産」と愛着・発達障害のあいだで』

福島寿紀（ふくしま・かずき）

※タイトル五十音順

賞金 大賞＝ 300 万円（複数受賞の場合は分割）

発表 受賞作は2025年2月頃発売の『週刊ポスト』『女性セブン』

及び小社ホームページで発表いたします。受賞作は単行本として刊行予定です。

選考委員 酒井順子、森健、河合香織

※受賞を祝う会は、単行本の刊行に合わせて執り行う予定です。

【本件に関するお問い合わせ先】

〈本日19時45分まで〉小学館 広報室／電話 03-3230-5870

〈12月15日以降〉小学館ノンフィクション大賞事務局 橘高（きったか）／電話 03-3230-5568